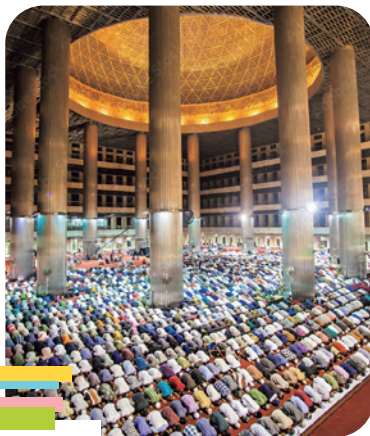


海外教育旅行の すすめ

2025



国土交通省
観光庁

観光庁では、令和6年度「海外教育旅行プログラム付加価値向上支援事業」において、旅行会社と学校関係者等の連携により海外教育旅行のプログラム開発に取り組んでいただきました。

旅行会社が、学校や関係事業者と連携して、学校が海外教育旅行に求める思いや学習により得られる効果などを反映すべく、来年度以降における海外教育旅行の実施、また商品化を目指し、有識者のアドバイスをいただきながら、教育的に付加価値の高いプログラム開発に取り組んでいただき、実際に旅行会社や学校関係者に現地視察にも行っていただきました。

本書は、今年度開発されたプログラム内容や狙い、育てたい生徒像、学習効果などを簡潔にまとめたものです。

今後の海外教育旅行を新たに導入する学校関係者や旅行会社のご参考になれば幸いです。

末尾になりましたが、制作にあたり本事業にご協力いただきました旅行会社、学校関係者、関係各位の皆様にご心より感謝申し上げます。

開発プログラム 3 つのカテゴリー	04
海外教育旅行実施のロードマップ	05

Category 1 社会課題解決と起業家精神

タイ	「国家・地方創成×国際交流プログラム」.....	06
	株式会社エムアールシージャパン×関東学院六浦高等学校	
ラオス	「Discovery Tour in Laos ～ラオスを通して発見する新しい自分の過去、現在、そして未来～」..	08
	株式会社 JTB 京都中央支店×学校法人立命館立命館高等学校	
カンボジア	「アントレプレナーシップ型探究研修」	10
	とことこあーす株式会社×大手前高松高等学校	

Category 2 国際交流を通じた異文化理解

マレーシア	「英語を学ぶだけじゃない！世界を広げるマレーシア語学研修」	12
	株式会社 JTB 横浜支店×横浜富士見丘学園中学校・高等学校	
韓国	「日韓高校生の国際共同探究研修」	14
	株式会社エモック・エンタープライズ×開智中学・高等学校	
マレーシア	「人に学び物に学び自然に学ぶ 多文化共生に求められる未来のつくり方」	16
	株式会社 JTB 埼玉支店×さいたま市立大宮国際中等教育学校	
アメリカ	「姉妹都市交流から未来に繋げる米国西海岸教育旅行プログラム」	18
	株式会社陸前高田アメイジングトリップ・ビューロー×岩手県立高田高等学校	

Category 3 ウェルビーイングと自己成長

インドネシア	「DISCOVERY JOURNEY (発見の旅) ～修学旅行で中高生が自分のWell-beingに出逢う機会を創出～」..	20
	株式会社 JTB 教育第二事業部×株式会社 JTB 企画開発プロデュースセンター×学校法人明昭学園岩倉高等学校	
フィンランド	「7年連続『幸福度世界No1』に選ばれたフィンランドから学ぶWell-being」	22
	株式会社 ATI×湘南白百合学園中学高等学校	

選定委員・アドバイザーのご紹介	24
プログラム問合せ先	25

開発プログラム 3つのカテゴリー

海外教育旅行プログラムは、各プログラムの育てたい生徒像、学習効果、方面によって様々なカテゴリーに分類されます。観光庁は、令和6年度「海外教育旅行プログラム付加価値向上支援事業」において、開発した9つのプログラムを以下の3つのカテゴリーに分けました。

1

Category

社会課題解決と起業家精神

環境問題や過疎などの社会課題を探究し、解決策を考える力を育みます。現地の専門家や起業家との対話を通じて学びを深め、次世代のリーダーとしての視点や起業家精神を養います。



2

Category

国際交流を通じた異文化理解

異文化交流を通じて、多様性を尊重する姿勢や国際的な視野を養います。現地の学生や地域の人々との協働を通じて、コミュニケーション能力や異文化適応力を高めることを目指します。

3

Category

ウェルビーイングと自己成長

自己理解を深め、心身の健康や幸福を大切にする力を養います。現地の方との交流やマインドフルネスを通じて、自分と向き合い、自己肯定感や困難を乗り越える力を高める機会を提供します。



海外教育旅行実施のロードマップ

高校2年生 秋の実施を想定

※プログラム内容によって期間は異なります。





地域・国家が抱える課題から
日本社会との対比を考える

国家・地方創成 × 国際交流プログラム

株式会社エムアールシージャパン × 関東学院六浦高等学校

キャリア形成

異文化体験

学生交流

探究学習

アイコンサイアム



プログラム概要

「地方・都市部の開発・創生と、その課題」をテーマに、「深い人的交流」を促進します。チェンマイでは農村部・少数民族村を訪問、さらにバンコクでは大規模開発が進む最先端地区とスラム街の訪問を通じて、日本と比較し、「誰一人取り残さない」ことを未来に見据えた地域づくり・政策立案を考えるきっかけになるプログラムを企画しました。また、少数民族村では村民との交流だけでなく、インタビューや生活体験も行います。

プログラムの教育効果

地域社会に関する課題観や視点を洗練させることで、研修後には具体的な地方創生策やバランスの良い発展策の立案ができるような研修を目指しています。プログラムへの参加を通じて、タイに存在する農村部の課題や急激な経済発展に伴う社会的課題を理解し、その解決策を提案できる人材への育成へと繋げていきます。

プログラム行程

1日目 AM 飛行機にて一路、バンコクへ
PM 都市部の見学・フィールドワーク

2日目 AM チェンマイ（現地施設の見学）

3日目 PM 少数民族村（生活体験、農作業、食事準備など）

4日目 AM チェンマイ（現地施設の見学、講義など）
PM 現地学校訪問・交流、宿泊体験

5日目 PM 現地学校との交流

6日目 AM バンコクへ移動
PM 現地施設の見学、講義など

7日目 AM バンコクスラム街訪問
PM プログラム振り返り会・プレゼンテーション

8日目 AM 飛行機にて一路、日本へ

事前学習・事後学習

準備期間 4～5ヶ月を想定

事前学習 タイの概要・少数民族に関する学習、現地日本法人スタッフによる講義と政策立案に関する学習

事後学習 課題解決策の立案、プレゼンテーション報告会

事前学習ではタイの歴史や現状、地理・産業などをインプットすること、そこから考えられるタイの地方創生における課題の仮説を事前課題にて立案します。行程表に則した形で現地での行動計画も立案し、現地フィールドワークで検証、案を精査していきます。事後学習では自分の仮説と現地での気づきや成果に基づき、自分の課題解決の提案をプログラムに関わった人たちに向けて行います。

こ こ が ポ イ ン ト !

多様な生活・価値観の体験と
日本との比較による気づきを

異なる民族や地域による生活の違いや将来に対する考え方の違いから、地方と都市の格差を体験できます。その一方で、タイの最先端分野を目の当たりにすることで日本に勝るとも劣らない現状を実感し、国際競争のなかでの今後の日本の立ち位置を考えるきっかけを提供します。



バーンロムサイ（孤児院）

プログラム開発の成果

視察日程 2025年1月10日～1月14日

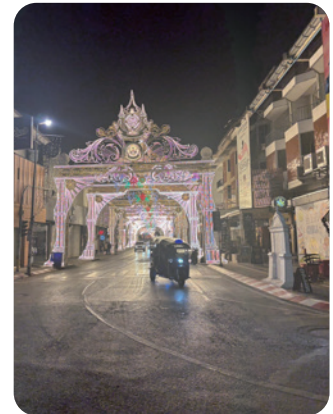
視察成果

- ① 少数民族村のホームステイを日帰りに変更
- ② 2校の学校訪問を実施することを決定
- ③ 政策立案や地域づくりなどの視点を深めていくコンテンツにすることを検討

少数民族村を視察し、生活環境の厳しさから宿泊から日帰りに変更することを判断しました。また、タイの発展が顕著に見える場所を視察したことで貧富の差や国家政策など振れ幅を生徒たちに感じてもらえるプログラムにしたいという想いが強くなりました。



少数民族村の風景



チェンマイ旧市街の夜景

安全対策

現地法人とパートナーシップを結び、有事の際に緊急対応ができる体制を整えています。参加者には健康状態や常用薬、アレルギーなどの状況をヒアリングし、行程内において配慮を行います。

学校関係者のコメント：関東学院六浦高等学校 宇野真泰先生

世界には様々な民族や経済的背景を持つ人々が存在するなかで、日本の立ち位置を実感し、支援が必要な分野と、すでに遅れを取っている分野の両方を生徒たちに理解してもらいたいです。そのうえで、私たちが今やるべきことは何なのかを考えるきっかけへと繋げてほしいと考えています。

アドバイザーのコメント：一般社団法人海外留学協議会 事務局長 星野達彦氏

経済格差をはじめ、民族的にも、ジェンダー的にも多様性に富んだタイは、同じアジアという地域にあっても日本とは全く違った国家だと言えるでしょう。その違いを肌で感じてきてもらえればと思います。また、事前学習でタイと日本の歴史的なつながりを学び、より親近感を持って現地を訪れてもらいたいです。





持続可能な未来への探求と挑戦
サステナブル・ツーリズムを体感

Discovery Tour in Laos ～ラオスを通して 発見する新しい自分の過去、現在、そして未来～

株式会社 JTB 京都中央支店 × 学校法人立命館立命館高等学校

異文化体験

探究学習

ホームステイ

学生交流

起業家に対してラオスのサステナブルツーリズムについてのプレゼンテーション



プログラム概要

本プログラムは、サステナブル・ツーリズムの観点からラオスの魅力を探り、持続可能な未来につながるアイデアを共創することを目的としています。現地学生が複数日にわたり参加・同行することを通じたダイアログ（対話）やフィールドワーク、さらには農村ホームステイや文化体験から多様性を理解し、ラオスが抱える課題に対して英語で解決策を考える機会を提供します。

プログラムの教育効果

現地の参加者（高校生・大学生）や日本の高校生との深い対話を通じて、課題を「自分ごと」として考える力を育みます。さらに、多様性のなかで協働・共創することで社会とのつながりを実感し、主体性を養います。持続可能な観光のあり方について考えることを通じて、未来の社会のあり方についても考えるきっかけとなることを期待しています。

プログラム行程

- | | | | |
|-----|--|-----|--|
| 1日目 | AM 飛行機にて一路、ラオスへ
PM 夕食レストランへ | 5日目 | AM 托鉢の体験後ホストファミリーとお別れ
PM 起業家に対してラオスのサステナブルツーリズムについてのプレゼンテーション |
| 2日目 | AM ルアンパバーンへ
PM 現地学生とチームビルディング&交流会 | 6日目 | AM フィールドワークから空港へ移動
PM 空路ハノイへ移動後、乗り継ぎで一路、関西空港へ |
| 3日目 | AM サステナブル・ツーリズムの講話
PM 視察体験とワークショップ | 7日目 | AM 関西空港到着・解散 |
| 4日目 | AM オーガニックファームの訪問
PM サステナブル・ビジネス視察と村長の講話
ホームステイ面会 | | |

事前学習・事後学習

準備期間 4～5ヶ月を想定

事前学習 ラオスが抱える社会課題のリサーチ

事後学習 現地での体験の可視化・共有、学内プレゼンテーション

事前学習では馴染みのないラオスという国に対する理解を深め、ラオスで学ぶ理由を明確化するだけでなく、主体性をもった学びのためのマインドセットを行います。また、帰国後は体験の価値を言語化する振り返りだけでなく、参加者の意識・行動変容のきっかけとなるよう、学内プレゼンテーションの実施を企画しています。

Discovery Tour in Laos ～ラオスを通して発見する新しい自分の過去、現在、そして未来～

こ こ が ポ イ ン ト !

観光の光と影を体感し
自らの視点で課題に向き合う

本プログラムは、一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)の「Diversity Voyage」プログラムとの協働企画として開催し、ラオスの現地学生とともにサステナブル・ツーリズムをテーマにした連日の対話(ダイアログ)ができることが魅力です。さらに農村ホームステイを通じて、観光の光と影を体感し、ラオスの発展について生徒自らの視点で課題を捉えることができると考えています。



ダイアログの様子

ルアンパバーン学生との
ダイバーシティウォークの様子

プログラム開発の成果

視察日程 2024年12月21日～12月24日

視察成果

- ① ホームステイ先となる農村視察
- ② プログラム時の学生たちの動線確認
- ③ 食事、衛生・安全面の確認

今回の視察を通じ、自然と共生する素朴な暮らしや仏教文化の深さなどを感じることができました。日本人にとっては馴染みのない国ですが、生徒たちに実際のスローライフを体験してもらうことによって豊かさの本質を考える機会としてほしいと思っています。



村の人たちからの熱烈な歓迎



托鉢体験



農村でのアクティビティ体験

安全対策

現地のプログラムは、ラオスでのプログラム経験豊富な(一社)グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)が運営を担当し、連携しているラオスの有力な旅行会社が手配を担当することで現地の最新事情に合わせた対応が可能となり、滞在中の安全・安心を確保します。また、常に現地ラオスの学生・コーディネーターが同行するため、英語が通じない場面でも円滑なコミュニケーションが可能です。

学校関係者のコメント：学校法人立命館立命館高等学校 中西美佐先生

生徒たちには、五感を使って社会課題のリアルに触れると共に、サステナブル・ツーリズムをテーマに問い続ける姿勢を大切にしてほしいと考えています。文化や自然を守りながら「ラオスらしさ」や「豊かさとは」、「真の幸せとは」という問いについて探求し、単なる観光者ではなく、客観的・多角的視点を持ち、新たな気づきを得る姿勢でプログラムに参加してもらいたいと考えています。この研修が生徒たちにとっての原体験となり、研修後にチェンジメーカーとして動き出してくれることを願っています。

アドバイザーのコメント：和歌山大学 観光学部 / 武蔵野大学 しあわせ研究所 教授 加藤久美氏

社会・経済・環境の視点から、自分が地域にどんなプラスの影響を与えられるのかを考えながら研修に臨んでほしいと思います。観光の本来あるべき姿を見つめ直し、旅行者として地域に何ができるのかを考えることが、サステナブルツーリズムの基本の一つにもなります。ぜひ生徒たちには、その視点を大切にしてほしいですね。





当事者意識を高め
人生の駆動力となる“原体験”を

アントレプレナーシップ型 探究研修

とことこあーす株式会社 × 大手前高松高校

キャリア形成

異文化体験

探究学習

学生交流

earth tree ビレッジのみんなと一緒に



プログラム概要

カンボジアで、雇用創出・持続可能な循環型経済を推進する NPO 法人 earth tree や IKTT 工場などの視察を通じ、アントレプレナーシップに必要な当事者意識を育むとともに、持続可能な社会を自分ごと化して考える機会を生み出します。今後の駆動力となる体験の提供を目的としています。

プログラムの教育効果

環境・自然保護、伝統技術の継承と経済発展を両立させる新しい社会のあり方を体現する日本人先駆者との出会いを通じ、自らアクションを起こすことの必要性に気づき、自身で考えるきっかけとなることを期待します。

プログラム行程

- 1日目 **AM** 飛行機にて一路、シェムリアップへ
- AM** シェムリアップ郊外の村（ローカルマーケット、高校訪問）
- 2日目 **PM** earth tree ビレッジ（クリエイティブプロジェクトの参加、夕食作り）
希望者は earth tree ビレッジに宿泊し、暮らし体験
- 3日目 **AM** シェムリアップ（アンコールワット遺跡、タブローム遺跡、キリングフィールド）
PM シェムリアップ市内（オールドマーケットやナイトマーケットでの自由行動）
- 4日目 **AM** シェムリアップ郊外の村（IKTT 工場）
PM 飛行機にて一路、日本へ

事前学習・事後学習

準備期間 4～5ヶ月を想定

事前学習 アントレプレナーシップ教育体験、哲学対話

事後学習 アントレプレナーシップ教育体験、カンボジア概論・歴史の学習、個人探究、哲学対話

事前学習は会社設立から販売までのビジネスプロセスを実践的に体験します。チームで会社を立ち上げ、ビジネスプランを作成し、資金調達を経て製品を開発・販売。財務管理を行いながら最終利益を算出し、意思決定の影響を振り返ります。事前学習では仮想通貨を使用し、事後学習では実際の円を活用しながら、起業・財務管理・マーケティングを実践的に学びます。利益を生み出す経験を通じて、経営感覚や社会貢献の意識を育むビジネスチャレンジプログラムです。

こ こ が ポ イ ン ト !

村のなかに持続可能な社会を
循環型エコビレッジを体感

NPO 法人 earth tree が展開する、職場×学校×暮らしが一緒になった複合施設 earth tree ビレッジでは、竹建築にまつわる事業を通じて、子供の教育から新しい雇用まで創出しています。現地を体験することで、社会課題に対する当事者意識が芽生えると考えています。また、生徒自身が自分のあり方を見直すことが、次世代リーダーの育成にも繋がると捉えています。



村の暮らしを大切にしながら雇用が今を守り、教育が未来をつくる循環社会

プログラム開発の成果

視察日程 2025年1月5日～1月9日

視察成果

- ① 教員自身が経験した価値観・人生観の変化
- ② IKTT 工場の視察をプログラムに追加
- ③ 現地の治安・安全面についての確認

視察現場での対話を通じ、教員自身の価値観・人生観を変えるターニングポイントとなり、研修旅行への期待が高まりました。また、アントレプレナーシップに対する理解をより深めてもらいたいという想いから、村での宿泊体験や IKTT 工場の視察もプログラムに追加しました。



出会った人との触れ合いが人生観を変える



観光や見学ではなく、
体感することで学びが深まる

安全対策

参加する生徒たちには、現地を拠点に活動している NPO 法人 earth tree と連携しながら事前に事例を用いた交通ルールや街中での注意点をレクチャーをすることで滞在中も安心して過ごせるようにサポートします。

学校関係者のコメント：大手前高松高等学校 合田 意先生

コト・モノの消費ではなく、現地で活躍する人物やローカルな人々との出会い・対話から新たな学びを得てもらいたいと考えています。また、経済を持続可能な形で創り上げている earth tree ビレッジでの体験を通じて、地域の経済圏や人とのつながりを創造するような未来を考えてほしいと思います。「自分がやりたいことがわからない」、「自分を変えたい」という生徒たちの一助となるプログラムとして開催できれば幸いです。

アドバイザーのコメント：昌平中学・高等学校 学園長 城川雅士氏

非常にコアな部分にまで踏み込んだ内容のプログラムとなっており、教師陣の熱量の高さが窺えます。現地での体験が、まさに人生観を大きく変える体験となることでしょう。earth tree ビレッジでの体験を通じて、地元を大切にすることの重要性にも気づいてもらえれば嬉しいです。





言語を学ぶ意義を考え
自分の可能性を広げる体験を

英語を学ぶだけじゃない！ 世界を広げるマレーシア語学研修

株式会社 JTB 横浜支店 × 株式会社留学情報館 ×
横浜富士見丘学園中学校・高等学校

キャリア形成

異文化体験

大学訪問

学生交流

アジア・パシフィック大学 (大学訪問)



プログラム概要

大学進学後の自分像をイメージさせるため、【世界 167 位】豪名門大学であるウーロンゴン大学マレーシア校での英語研修に加え、大学寮で生活体験を行う他、現地有名大学のキャンパス見学・学生交流・ワークショップ等を実施します。また、ブルーモスクをはじめとした周辺観光地を巡ることでマレーシアの多様性を直接体感できるプログラムになっています。英語力の向上にとどまらず、英語を活用した将来のキャリア形成までを見据えた総合的な学びを提供します。

プログラムの教育効果

- ①これまでの語学研修では実現できなかった「英語学習をその後のキャリアや進学に繋げる」ことにより、生徒の学習意欲を引き立てる。(英語学習のモチベーション向上)
- ②海外大学進学の実現を持ち、海外大学進学を実現するための土台(英語力・適応能力・コミュニケーション能力・学習意欲・モチベーション)を整える。(グローバル意識醸成)

プログラム行程

1日目 飛行機にて一路、クアラルンプールへ

2日目 クアラルンプール
ブルーモスク、ツインタワー等観光(異文化・多様性理解)

3日目 クアラルンプール
アジア・パシフィック大学、テイラーズ大学等現地大学訪問

4日目 クアラルンプール
ウーロンゴン大学マレーシア校大学寮宿泊・生活体験、
7日目 語学研修・大学視察

8日目 クアラルンプール
バトゥ洞窟、パピリオン等観光(異文化・多様性理解)

9日目 クアラルンプール チャイナタウン、セントラル
マーケット等でフィールドワーク(英語の実践)

10~12日目 クアラルンプール ウーロンゴン大学マレーシア
校大学寮宿泊、英語語学研修を実施

13日目 クアラルンプール
ウーロンゴン大学マレーシア校大学寮宿泊、
英語研修&成果報告会(プレゼンテーション)等実施

14日目 飛行機にて一路、日本へ

事前学習・事後学習

準備期間 4～5ヶ月を想定

事前学習 異文化理解ワークショップ・マレーシア政府観光局等による講演・渡航先情報のリサーチ活動など

事後学習 自己分析・キャリアプランニング・海外進学専門カウンセラーによる面談・出願支援・渡航サポート

渡航前に、異文化理解ワークショップ・マレーシア政府観光局等による講演・渡航先情報のリサーチ活動を実施することで、現地研修の学習効果を高める仕組みを整えました。渡航後は、現地での学びをもとに、自己分析・キャリアプランニング・海外進学専門カウンセラーによる面談・渡航サポート等を行い、生徒のキャリア構築に役立てることが可能です。国内のみならず、海外大学進学を選択肢として考えられるよう、研修後も生徒の学習意欲が高めるサポートを行います。

英語を学ぶだけじゃない！世界を広げるマレーシア語学研修

こ こ が ポ イ ン ト !

「世界167位！豪名門大学ウーロンゴン大学マレーシア校での学生生活体験＆英語研修」×「現地大学訪問・観光地見学」⇒英語を活用した将来のキャリア形成へ

豪名門大学ウーロンゴン大学マレーシア校（2025年度QS世界大学ランキング167位）にて約2週間学生生活をしながら、大学内で英語研修や学生との交流を実施します。これまでの英語研修では実現できなかった「英語学習をその後のキャリアや進学に繋げる」グローバル意識を醸成するプログラムになりました。

語学研修は、大学施設を利用する課題解決型のアクティブラーニングを企画。教室にとどまらず、大学の施設

やリソースを利用しながら、主体的に英語学習を行うことができます。授業後の課題も、大学図書館等を利用した探究型課題を設定することにより、大学生活を具体的にイメージできる仕様となっています。ご希望に応じ、放課後は大学のサークルや部活動を体験することも可能です。また、現地有名大学やブルームスク等の観光地を見学することで、多民族国家マレーシアの多様性を直接体感できる研修内容です。

プログラム開発の成果

視察日程 2024年11月26日～11月29日

視察成果

- ① 大学訪問・寮生活体験とあわせた語学研修によるキャリア教育
- ② マレーシアを体感できるアクティビティを研修内容にプラス
- ③ 生徒の「世界を広げる」ためのアイデアとイメージの具体化

語学学校での英語学習や大学見学を通じたキャリア教育に加え、視察を通じて周辺観光アクティビティやフィールドワークを取り入れることで、マレーシアの多様性を体感できることを実感しました。これにより、生徒たちの世界観をさらに広げるプログラムを構えたと考えています。



ウーロンゴン大学マレーシア校
(学生生活体験＆英語研修)



バトゥ洞窟（異文化理解）

安全対策

出発前に参加者のアレルギー・健康調査を実施し現地支店と対応方を協議します。見学先の危険情報を現地支店を通じて事前に確認し、語学研修や大学視察以外のアクティビティの際も安全に配慮致します。

学校関係者のコメント：横浜富士見丘学園中学校・高等学校 理事長・校長 永川尚文先生

語学は日本でも学べますが、それ自体が目的ではなく、何かを達成するための手段であることを実感することが大切です。現地での経験や多様な交流を通じて、語学がさまざまな活動に必要なことを体験し、それを貴重な学びの機会として活かしてほしいと考えています。

アドバイザーのコメント：昌平中学・高等学校 学園長 城川雅士氏

経済成長が著しい東南アジア圏で暮らす人々の前向きなエネルギーや地域のダイナミズムに触れることで、自身の成長や、日本が世界で果たすべき役割について考える貴重な機会となるはずです。狭い社会にとどまらず、広い視野で世界を見つめることが、キャリア形成の重要な材料となるでしょう。





海外研修の新たなフェーズ
国境を越えたリアルな交流を

日韓高校生の 国際共同探究研修

株式会社エモック・エンタープライズ × 開智中学・高等学校

異文化体験

探究学習

学生交流

平和学習

ホームステイ

キョンヘ女子高校で文化交流・集合写真



プログラム概要

韓国・釜山を拠点に、日韓高校生の国際共同探究研修を主軸とした高付加価値の海外研修を開催。地元韓国の生徒たちとの対面交流を実現し、お互いの地域が抱える課題を日韓双方の学生視点で探究。解決のためのアイデアを共有し、意見を交換する過程で、SDGsをめぐる新しい視点や発想に触れ、国際的なものの見方を得ることができます。さらに心から語り合える友人と出会えることで、中長期的な相互交流へと発展する新しい海外研修の形をご提案します。

プログラムの教育効果

単なる観光や学校訪問で終わる海外研修ではなく、日韓に共通する地域課題を探究的手法で見つけだし、課題解決の方法をグローバルな視点から議論する事を目指しています。研修を通して双方の地域が共通で抱える課題（伝統産業の継承、食をめぐる問題）を発見できた。現地で具体的にフィールドワークを行う事で、日韓での共通点と相違点を体験的に学ぶ事が出来、身近な国の同世代の友人と共に課題解決が出来る国際交流に期待しています。

プログラム行程

1日目 飛行機にて一路、釜山または慶尚南道へ

2日目 耕慧(キョンヘ)女子高等学校にて文化交流

3日目 釜山日本語キャンプに参加して文化交流

4日目 耕慧(キョンヘ)女子高等学校にて地域課題の再確認

5日目 耕慧(キョンヘ)女子高等学校にてプレゼンテーション

6日目 釜山にてグループ観光

7日目 東京着

事前学習・事後学習

準備期間 4～5ヶ月を想定

事前学習 訪問先の生徒とオンライン交流

事後学習 プレゼンテーション報告会、訪日交流

事前学習ではオンライン交流によって効果的な国際交流の方法について体験的に学びます。

韓国語で自己紹介したり、お互いの国で流行している文化について質問して、相手文化への理解を深めます。事後学習では、文化祭や発表会などで報告会を実施し、自分たちの経験を共有します。訪日交流が可能な場合、一緒に企画し活動することで友情をいっそう深めることができます。探究に対する問題意識も再度確認することができます。

日韓高校生の国際共同探究研修

ここがポイント！

同世代を生きる生徒との交流で
一生付き合える友人を韓国に

研修期間中の対面交流を通じて、オンライン上では捉えきれない相手のリアルな人間性を感じることができます。それにより探究学習の枠を超え、同世代を生きる友人として深い絆を築くことができます。広い視点で捉えれば、本プログラムは日韓の距離を縮める架け橋ともなり得ると考えています。



1月1日、釜山の海東龍宮寺にて初詣



釜山、甘川文化村で世界のサランヘヨを発見

プログラム開発の成果

視察日程 2024年12月26日～2025年1月3日

視察成果

- ① 生徒同士の実際の交流風景が見られた
- ② 言語の壁を超える対面交流のあり方
- ③ 移動手段・食事などの安全面や適正確認

実際に生徒4名を伴い現地視察を行ったことで、プログラムに対するリアルな反応を直接見るできました。当初は英語での探究学習の進め方を中心に考えていましたが、それだけにとどまらず、国境を越えた真の交流のあり方を改めて実感する機会となりました。



ヴィーガン文化について探究発表



伝統衣装で時代劇のワンシーン

安全対策

プログラム期間中は、バイリンガル（日本語と韓国語が話せる）現地添乗員が同行します。校外活動では現地のバイリンガル教員と生徒たちが一緒に行動しますが、エリアを限定しての自由行動となります。現地はネット環境が整っているため、メールやアプリなどでスムーズに連絡を取り合うことができます。

学校関係者のコメント：開智中学・高等学校 三原 忠先生

国境を越えた探究学習には、言語ではなく、人間同士の本質的な交流がいかに重要であるかを今回の視察を通じて痛感しました。日韓関係の現在地を直接肌で感じることができるこのプログラムを通じて相互理解を深め、継続的に交流ができる機会を築いていきたいと考えています。

アドバイザーのコメント：一般社団法人次世代教育ネットワーク機構 理事・事務局長 中野 憲氏

本プログラムは、海外研修のフェーズが変わるきっかけとなるような印象を受けました。リアルな交流を進めたうえで、探究を深めていくという観点は、従来の海外研修とは一線を画しています。より意義のある学びの形を模索するプログラムとして、大きな可能性を秘めていると感じています。





グローバルな視点を養い
自律したキャリア形成へ

人に学び 物に学び 自然に学ぶ 多文化共生に求められる未来のつくり方

株式会社 JTB 埼玉支店 × さいたま市立大宮国際中等教育学校

キャリア形成

探究学習

学生交流

大学訪問

ピンクモスク、宗教のあり方を体感する



プログラム概要

マレーシアでもトップレベルであるプトラ大学での現地学生との交流、マレーシアに進出する日本企業への訪問、少数民族や難民・環境問題といった社会課題の解決を軸に活動する現地企業での体験などを通じて、多角的な視点から他者理解を深められるプログラムとして形成しています。現地での経験を通じ、生徒たちにキャリア自律を促します。

プログラムの教育効果

広い視野で本物に触れ、逆算して進路に向けた考え方ができるようになってほしいという想いから、進路選択の時期に差し掛かった生徒の考え方を発展させられる機会とします。多文化共生やグローバルな視点を学びながら、具体的な行動計画を立てられるまでになることを期待します。

プログラム行程

1日目 飛行機にて一路、クアラルンプールへ

2日目 プトラ大学にて現地大学生バディとワークショップ

3日目 プトラ大学にて授業の体験、熱帯雨林のトレッキング

4日目 マラッカ観光（市内班別研修）

5日目 クアラルンプール市内 B&S プログラム

6日目 クアラルンプール市内とプトラジャヤ、バトゥ洞窟見学

7日目 プトラ大学にて授業の体験、プレゼンテーション

8日目 企業・団体訪問（TOTO マレーシアや KOKUYO、ららぽーと、Earth Heir、日本大使館など）

班別市内自主研修

9日目 モナシュ大学およびサンウェイ大学の見学
※いわゆるキャンパスツアーを予定しています。

ららぽーとでのイベント準備および実施

10日目 飛行機にて一路、日本へ

事前学習・事後学習

準備期間 4～5ヶ月を想定

事前学習 マレーシア政府観光局による、歴史や宗教、文化、教育に関する講演会の実施 およびマレーシアでの生活経験を持つ方からの生の声を聞く

事後学習 異なるテーマで探究を設定したグループ同士でのディスカッションや、探究発表会を実施

事前学習では、マレーシアが持つ多様な面から生徒それぞれが自らの興味関心に沿って探究テーマを模索し、設定できる機会を設けます。さらに、日本人学校、日本語学校、在日本大使館で働くマレーシアでの生活を体験した方々から実体験を通じた多文化共生の実際について学びます。事後学習は生徒それぞれが現地で感じたこと、経験したことをベースに、生涯教育の一助となるよう実施します。探究発表会では、校内の後輩・保護者・地域の人々にまで学びが伝えられる機会とします。

人に学び 物に学び 自然に学ぶ 多文化共生に求められる未来のつくり方

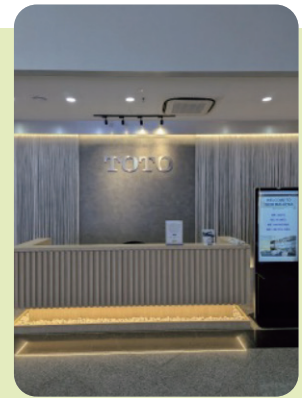
ここがポイント！

現地日本企業を訪問を通じ
将来のキャリア形成に繋げる

実際に現地で働く日本人から直接話を聞けることが、本プログラムの大きな特徴です。異なる文化圏の人々と共存しながら、海外で日本人として働く意義や現地での苦勞についてのヒアリングを通じて、「グローバルに働くこと」をより具体的に考えるきっかけを得ることができます。



ららぽーと、日本料理のお店が豊富



TOTO、エントランス

プログラム開発の成果

視察日程 2024年11月27日～12月1日

視察成果

- ① プログラムの具体的イメージの把握
- ② マレーシアに進出する日本企業への訪問
- ③ 現地の治安・安全面についての確認

TOTO、ららぽーとなど、現地に進出する日本企業を訪問するなかで、生徒たちに感じ取ってほしいポイントが明確になりました。さらに、現地の人々が日本に対して抱く高い関心を実感するとともに、日本人として地域社会にどのように貢献できるかを考える貴重な機会を提供できると考えています。



ブトラ大学、学内の様子



バトゥ洞窟、宗教の多様さを実感

安全対策

自社の現地支店と常に連携をとり、緊急時にも万全な体制を整えております。基本的には現地ガイドが行動を共にしますが、視察時に繁華街やホテル周辺の治安の良さを実際に確認できた為、現地ガイドや添乗員がすぐに対応できる体制を整えた上での班別自主研修、フードコートでの自由食を組み込んでおります。さらに、現地デスクやキャッシュレス提携病院を持つ保険会社をご案内しております。

学校関係者のコメント：さいたま市立大宮国際中等教育学校 本郷舞子先生

本校では、日ごろから「Grit・Growth・Global」の力を伸ばす探究学習に取り組んでいます。マレーシアは、日本とは異なる多文化共生社会のモデルであり、学びの宝庫でもあります。今後のキャリア形成において、多様な価値観や環境の中で地域社会とかかわり、貢献する方法を考えることが重要です。そのために、自らのアイデンティティを深く理解し、イノベティブな視点を持ちながら、柔軟な発想で新たな価値を創造する力を発揮することが求められます。この研修を通じて、自己認識を深め、それを社会と結びつけながら、現地での課題解決に向けた実践的な取り組みへとつなげていくことを期待しています。

アドバイザーのコメント：一般財団法人海外留学協議会 事務局長 星野達彦氏

多様性が際立つマレーシアは、人種が明確に分かれていながらも一つの国家として成立しており、日本との違いを実感できる国です。本プログラムを通じ、生徒たちの視点を広げ、将来のキャリア形成にも影響する経験となること間違いないでしょう。素晴らしいプログラムになることを期待しています。





国際的な視点・感覚を養い
地域都市間の連携の向上へ

姉妹都市交流から未来に繋げる 米国西海岸教育旅行プログラム

株式会社陸前高田アメイジングトリップ・ビューロー ×
岩手県立高田高等学校

キャリア形成

異文化体験

探究学習

ホームステイ

学生交流

クレセントシティ最終日 デルノーテ高校生と別れ



プログラム概要

本プログラムは、東日本大震災をきっかけに生まれた陸前高田市とアメリカ・クレセントシティの連携基盤に焦点を当て、国際交流を深めるとともに、生徒のキャリア形成に向けてグローバルな視野を養うことを目的としています。事前学習において、両市の歴史と連携の背景に理解を深めるとともに自身の探究テーマを設定したうえで、現地プログラムに臨みます。現地ではホームステイをしながら地元高校生と文化交流や協働で学習する時間を過ごし、異文化理解や関係づくりを学びます。またサンフランシスコにも立ち寄り、日本総領事館やシリコンバレー企業に訪問し、自身のキャリアについて考える機会を提供します。事後学習として、設定したテーマに沿ってプレゼンテーションを市民の前で報告をします。

プログラムの教育効果

姉妹都市という関係性を生かし、生徒、そして地域の人々が海外へと目を向けていくきっかけとなるプログラムとなることを期待しています。また、政府機関や企業訪問を通じて国際舞台で仕事をするモデルを学ぶとともに、姉妹都市との関係強化や地域産業の連携促進にも繋げる機会とします。

プログラム行程

1日目 飛行機にて一路、サンフランシスコへ

2日目 AM 在サンフランシスコ総領事館表敬訪問

PM クレセントシティへ、ホストファミリー対面

3日目 AM デルノーテ高校での交流

(文化交流、地元の水族館への訪問)

4日目 AM デルノーテ高校での交流

(授業体験、レッドウッド国立公園への訪問)

5日目 AM デルノーテ高校での交流

(授業体験、ホストファミリー交流)

6日目 AM サンフランシスコへ移動

PM アップル本社視察・社員講話

7日目 飛行機にて一路、日本へ

事前学習・事後学習

準備期間 4～5ヶ月を想定

事前学習 プラクティカルな英語授業、姉妹都市交流の経緯・歴史講義

事後学習 プレゼンテーション報告会

生徒一人ひとりが探究テーマを設定し、それに対していかに現地でインタビューするのかを事前学習で実践します。また、事後学習では市民の方を招いたプレゼンテーション報告会を開催します。

姉妹都市交流から未来に繋げる米国西海岸教育旅行プログラム

こ こ が ポ イ ン ト !

都市としての繋がりを深め
コミュニティに対する意識を向上

単なる国際交流ではなく、地域都市同士の繋がりを感じられるプログラムであり、生徒たちの地元地域に対する意識も高めます。また、現地に友人ができることで、旅行以上の経験を得ることができ、自分の可能性を広げるきっかけにもなります。既存の枠に捉われないことなく、チャレンジするという姿勢を大切にしてほしいと考えています。



文化交流 現地高校生と書道



デルノータ高校の先生による授業を現地生徒と受講

プログラム開発の成果

視察日程 2025年1月5日～1月12日

視察成果

- ① プログラムを通じた生徒たちの心境の変化
- ② 姉妹都市としての深い繋がり
- ③ 教育交流にとどまらない、地域同士の交流

生徒9名を連れての現地視察を実施し、毎日振り返りのアンケートをとった結果、日々の心境の変化と成長を感じることができました。また将来の進路・キャリアとして海外も視野に入れる生徒が現れたことが、今回の視察の大きな成果となりました。



クレセントシティ最終日にはすっかり仲良く



最終日アップル本社にて岩手県出身先輩を訪問

安全対策

クレセントシティでは、街を挙げてのプログラム開催に際して、現地の保安官や警察の協力を得ることで、より強固な安全対策を実施します。また、サンフランシスコ滞在中においても、総領事館にもご協力をいただき、ルート設定や移動手段の確保など含め十分な安全対策を講じます。

学校関係者のコメント：岩手県立高田高等学校 浅間祐輝先生

海外との繋がりが少ない陸前高田市において、生徒たちには外に目を向けるという感覚を養ってもらいたいと考えています。生徒だけでなく、地域全体を巻き込み、さらには引率者も含めて、コミュニティのためにできることを考えるきっかけとなるプログラムにできれば幸いです。

アドバイザーのコメント：日本大学 国際関係学部教授 穴戸 学氏

近年、地元の人々との交流を重視した体験型旅行が注目されています。特に、姉妹都市や姉妹校の関係を活かすことで地域とのつながりを深め、より魅力的な観光体験を提供することが可能になるでしょう。観光の本質は「交流」にあるといえ、本プログラムはその基盤として大変意義のある取り組みです。今後のさらなる発展に期待しています。





世界で活躍するグローバルリーダーと出逢い
自身のあり方を見つめなおす

『DISCOVERY JOURNEY (発見の旅)』 ～修学旅行で中高生が自分のWell-beingに出逢う機会を創出～

株式会社 JTB 教育第二事業部 ×
株式会社 JTB 企画開発プロデュースセンター ×
学校法人明昭学園岩倉高等学校

キャリア形成

異文化体験

探究学習

学生交流

平和学習

ジャカルタの工業高校：SMK Mitra Industri MM2100



プログラム概要

インドネシアという土地を通じ、「ムスリム文化・多様性の中の統一・Well-being」をテーマに、生徒が本当の自分 (Well-being) を探求することを目的としたプログラムとして開催します。インドネシアを代表するグローバルリーダーに出逢い、彼らが大切にしている価値観・ビジョン・人生を懸けて取り組んでいる実践や問いを共有してもらいます。「出逢い・対話・問い」をキーワードに、グローバルリーダーを通じて現地文化にも触れながら、「グローバル人材とは？」「自分はどうありたいのか？」を考え、対話する機会とします。本当の自分を知り、自分と世界の関わりの中で Well-being を派生循環させる、グローバル人材の育成を目指します。グローバルリーダーとは：その地に根差したイノベーションと社会的インパクトを起こし、インドネシアのテーマ×自身のパーパス（使命）を体現する人。本当の自分を知り、自分と世界の関わりの中でウェルビーイングを派生循環させる視点を持つ人をグローバルリーダーと定義しています。

プログラムの教育効果

本プログラムでは、旅先での「出逢い・対話・問い」を通じて、インドネシア特有の文化・価値観・社会課題への理解を深めるとともに、自身の価値観の変容につながる機会を提供します。グローバルリーダーと出逢い、グローバルリーダーの人生を通してインドネシアとより深くつながることで、日本人としてのアイデンティティや自身のあり方を見つめなおし、自分への新たな問いに出逢えることが期待されます。

プログラム行程

1日目 飛行機にて一路、ジャカルタへ

グローバルリーダーとの出逢い①

2日目 ストーリーテリング・ダイアログ・グローバルリーダーの使命に触れるアクティビティ (MM2100 フィールドワーク、現地校との交流プログラム等)

グローバルリーダーとの出逢い②

3日目 ストーリーテリング・ダイアログ・グローバルリーダーの使命に触れるアクティビティ (現地校とのエコ共創プロジェクト等)

4日目 市内観光体験

5日目 一路日本へ

事前学習・事後学習

準備期間 4～5ヶ月を想定

事前学習 自分らしさとインドネシアのテーマに向き合うオンライン事前学習

事後学習 研修を通じて生まれた価値観の変容・体験の振り返り

事前学習では、自分が大切にしている価値観と向き合い、自分を知るところからスタートします。また、インドネシアのテーマや出逢うグローバルリーダーの紹介を受け、旅へのワクワクを高めていきます。

事後学習では、研修を通じて得た気づきを振り返り、自分の中に生まれた変容に目を向けます。プログラムコーディネーターやグローバルリーダーに向けて、学びの成果をオンラインでプレゼンできる機会も計画しています。

『DISCOVERY JOURNEY (発見の旅)』～修学旅行で中高生が自分のWell-beingに出逢う機会を創出

こ こ が ポ イ ン ト !

グローバル人材を目指すうえで
欠かせない「ムスリム」文化の学び

世界人口の1/4を占めるムスリムについて理解を深めることは、今後グローバル人材を目指すうえで欠かせないことといえるのではないでしょうか。社会課題を抱えながらも、ムスリムの寛容性と多様性が文化として根付くインドネシアで、「本当の幸せとは何か？」を考えるきっかけにもなります。日本人でありながらムスリムである小尾吉弘氏の生き方も大きな学びとなるでしょう。さらに、ASEANで中心的役割を果たすインドネシアで、世界規模の視点で現在・未来と向き合います。



イスティقلال・モスク



スラム街

プログラム開発の成果

視察日程 2025年1月15日～1月21日

視察成果

- ① インドネシア発展に貢献する
グローバルリーダーの方々との面談
- ② 現地工業高校の視察
- ③ 市場の自由散策とスライム街の視察
をプログラムに採用することを決定

グローバルリーダーである小尾吉弘氏（BeFa社長）から、これまでの経験を通じて築かれた人生哲学を伺い、深い感銘を受けました。また、インドネシアの現状や今後の可能性、ムスリム社会についての貴重なお話をいただき、視察の大きな成果となりました。



グローバルリーダー（写真左）



現地校授業

安全対策

現地旅行会社 Panorama JTB とのやり取りを通じて、ホテル・移動手段など細やかな受け入れ準備・安全管理を徹底します。インドネシアの発展と貧困の現状を感じられる市場やスラム街においても、事前に現地旅行会社が視察・受け入れ交渉を行います。また、緊急時は、現地に精通した現地旅行会社協力のもと迅速に対応できる体制を整えます。

学校関係者のコメント：学校法人明昭学園岩倉高等学校 鬼頭修平先生

「多様性のなかの統一」を成し遂げているインドネシアは、日本の単一国家文化と異なる点が多く、その違いを理解するには、現地で直接会話し、五感で体感することが不可欠だと思っています。インドネシアで活躍する日本人グローバルリーダーとの出逢いは、豊かな人生の指針を得る貴重な機会となることでしょう。

アドバイザーのコメント：日本大学 国際関係学部 教授 穴戸 学氏

インドネシアは日本に近い国でありながら、その文化や宗教観、暮らしぶりには異なる部分が多々あります。そういった違いを通じて世界を感じ、現地で活躍する日本人先駆者たちがどのように向き合い、受け入れてきたのかを生徒たちには学んでほしいと思います。それによって、日本人とし変容を求められる点と、大切にすべき点に気づくことができるはずです。





本当の「豊かな生き方」とは
ライフスタイルから幸せを探究

7年連続『幸福度世界No1』に選ばれた フィンランドから学ぶWell-being

株式会社 ATI × 湘南白百合学園中学高等学校

キャリア形成

異文化体験

探究学習

学生交流

ホームステイ

フィンランド家庭



プログラム概要

「幸福度世界一」と言われているフィンランドのライフスタイルを探究するため、ネウボラや教育・医療機関などを訪問し、多様性・公平性・包括性について学びます。また、ホームステイや学校訪問を体験することで現地の生活から Well-being への理解を深める機会を創出するプログラムとして開催します。

プログラムの教育効果

フィンランドの Well-being は、個人の尊厳と人生の本質に重きがおかれています。生徒は研修を通じた体験を活かし、日本国内の Well-being のさらなる向上を目指すとともに、ホームステイや現地学校で生徒との交流を通じて、フィンランドの同世代が考える「幸せ」を体感します。それによって、自身の「幸せ」について深く考えるきっかけを提供します。

プログラム行程

1日目 PM 飛行機にて一路、ヘルシンキへ

2日目 AM ヘルシンキ市内主要場所見学

PM ヴィヒティへ ホストファミリーとマッチング

3日目 保育園母子センター（ネウボラ）や小学校 訪問

4日目 中学校や高等学校訪問

5日目 企業視察と福祉視察

6日目 高齢者施設訪問と福祉視察

7日目 ヘルシンキへ 自由時間

8日目 AM 一路日本へ

事前学習・事後学習

準備期間 4～5ヶ月を想定

事前学習 日本とフィンランドの両保育園での経験を持つ先生からのオンライン講演、フィンランド大使館商務部とのコラボ企画

事後学習 フィンランド大使館商務部とのコラボ企画

事前学習では、日本とフィンランドの両保育園での先生経験を持つ入野あき氏が、幼児教育の基本的なレクチャーと日本人がフィンランドで働いている意味について講演を行っていただきます。また、フィンランドでの DE & I の理解を深めるコラボ企画も用意しました。事後学習では、大使館商務部の方を交えてフィンランドで学んだことをどうやって日本で実践できるかをグループワークで検討します。

7年連続『幸福度世界No1』に選ばれたフィンランドから学ぶWell-being

こ　こ　が　ポ　イ　ン　ト　！

多角的なアプローチから
現地のWell-beingを肌で感じる

本プログラムでは事前学習の講演に加え、こどもダイアログの体験やネウボラ、保育園、高齢者施設、現地学校の見学、さらにホームステイなど、多角的なアプローチを取り入れています。これにより多様な視点を養いながら、フィンランドのWell-being・ライフスタイルを実際に体験できることが特徴です。



高齢者施設



保育園

プログラム開発の成果

視察日程 2025年1月1日～1月6日

視察成果

- ① ネウボラ訪問、保育園や高齢者施設の代表者へのインタビュー
- ② ホストファミリーとの面会
- ③ 企業訪問についても検討

フィンランド人のライフスタイルに対する理解をいかに深めていくかというところに焦点を当てつつ、訪問先についても検討する機会となりました。また、フィンランドでの体験をいかに日本の暮らしに反映していくべきかも改めて考える必要があると感じました。



ネウボラ



フィンランドの家庭

安全対策

ヘルシンキでは、mehilainen、pihlajalinna、terveystalo、aavaといった医療機関、緊急の場合は大学病院があります。ヴィヒティでは、mehilainen という医療機関があり、緊急の場合は規模の大きいロホヤ市の病院があります。ホームステイ中は、ホストファミリーと連携をとり、体調不良者が出た場合に添乗員が柔軟に対応いたします。

学校関係者のコメント：湘南白百合学園中学高等学校 藤本公俊先生

今の生徒たちは「幸せ」について意識する機会が少ないかと思いますが、研修を通じた多様なアプローチから「そもそも幸せとは何か」を問いかけられるようなコンテンツを届けたいと考えています。また、保育や福祉、教育に対する興味・関心が深まり、人生のにとって大切な視点に気づけるプログラムとなれば光栄です。

アドバイザーのコメント：和歌山大学 観光学 / 武蔵野大学 しあわせ研究所 教授 加藤久美氏

フィンランドは、近年サスティナブルな観光地として注目されている国の一つでもあります。本プログラムは「幸せ」という大きなテーマを掲げながらも、その本質を納得できる要素が詰まっていると思います。学生たちが現地での学びを持ち帰り、日本で活かしてくれることを大いに期待しています。



選 定 委 員 ・ ア ド バ イ ザ ー の ご 紹 介

プログラムを選定し、開発にあたって、さまざまな観点から意見をいただいた有識者を紹介します。

一般社団法人次世代教育ネットワーキング機構 理事・事務局長 中野 憲氏

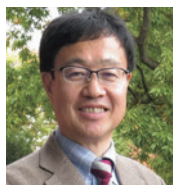


国際理解教育・海外研修・留学の専門企業を経て、株式会社JTBへ入社。国際交流推進室長、国際交流センター長、教育事業ソリューションセンター長、企画開発プロデュースセンター企画開発担当部長を歴任後、2023年4月に「次世代教育ネットワーキング機構」を設立し、現職。現代日本における教育のパラダイム変遷の時期に、グローバル領域も見据えた次世代教育の推進・浸透を目標として教育全般の高度化を目指す。また、多角的なアプローチによる教育界への情報発信や提言と、様々な教育プログラム開発及び運営に従事。令和3年度 観光庁「初等中等教育における観光教育の推進に関する協議会」アドバイザー委員

専門分野

国際理解教育
国際交流事業
次世代教育

日本大学 国際関係学部 教授 穴戸 学氏



専門は観光学。主専攻は観光ホスピタリティ教育（人材育成・産官学連携）。札幌国際大学、横浜商科大学を経て、現職。
科研費（国の競争資金）にて、教育機関や地域の人材育成、訪日教育旅行等の教育旅行の促進を含めた観光教育の研究に取り組む。
2023年度日本大学海外派遣研究員として、オーストラリアにて海外教育旅行の研究に取り組んだ。日本観光ホスピタリティ教育学会評議員（前会長）、日本国際観光学会（理事）、日本観光研究学会会員。日本学生観光連盟顧問、地方自治体等の観光関連委員を兼務。

専門分野

観光学
観光ホスピタリティ教育
人材育成

和歌山大学観光学部・武蔵野大学しあわせ研究所 教授 加藤久美氏



豪 Qld 大学、Griffith 大学レクチャーを経て、2008 年より現職。専門はサステナビリティ、サステナブルツーリズム。
ISA（国際社会学学会 RC50（観光））共同代表、PATA 理事、EarthCheck 研究員、Qld 大学客員准教授、Griffith 大学客員研究員。
観光庁持続可能な観光ガイドライン策定委員会（座長）などで日本における持続可能な観光地域づくり、環境省中央環境審議会委員など保全と活用に関する事業に貢献。著書：Sharples, R., & Kato, K. (2020). Tourism development in Japan (Routledge) など。

専門分野

サステナビリティ
サステナブルツーリズム

一般社団法人海外留学協議会 事務局長 星野達彦氏



30 年以上の留学事業経験を活かした国際教育事業コンサルティングを行いつつ、留学界団体や国際交流事業を行う財団の理事としての仕事や留学関連本の執筆などを行っている。業界最大手エージェントにて執行役員として事業開発、マーケティング、留学雑誌プロデュース、危機管理、営業支援システム構築、支店や Web サイト立ち上げなどを行ってきた。日本認定留学カウンセラー協会（JACSAC）を設立し、留学カウンセラーの育成にも取り組んでいる。講演：東京都教育委員会より依頼「留学の実態とキャリア」（教員向け）

専門分野

海外留学
海外研修
国際交流事業

昌平中学校・高等学校 学園長 城川雅士氏



「世界を変えられるのは教育」という想いをもち教員を目指し、東京学芸大学教育学部卒。卒業後は民間企業などでの勤務を経て、1995 年香川県の私立中高一貫校に初任。その後、民間の大手塾の運営部長などを務めた後、草創期の香川誠陵中学高校で学校づくりに参画。進路指導、生徒募集などを中心的に進める。同校で教務部長、教頭を歴任した後、2006 年昌平高校に教頭として着任。経営母体の法人が移管される時期に、学校再生を託され、学校改革の陣頭指揮を担った。2010 年より現職。

専門分野

学校経営
学校運営
中等教育全般
生物学

文部科学省 官民協働海外留学創出プロジェクト 広報・マーケティングチームリーダー 西川朋子氏



上智大学法学部を卒業後、人材、出版業界、メディア事業会社経営、PR 会社、IT 企業広報など民間企業で 15 年働いた後、2014 年 4 月から現職。2015 年、母校、神奈川県立湘南高校の同窓会による公益財団法人湘友会育英財団の設立に参画、奨学金審査委員。
2018 年、一般社団法人ヨコグシ設立、代表理事に就任。文部科学省から広報戦略アドバイザー業務を受託する他、行政機関等から広報審査委員、広報研修講師などを受託。2019 年、米国国務省インターナショナルビジターズ・リーダーシッププログラム（IVLP）選出。
2022 年より公益財団法人国際人材交流支援機構理事。

専門分野

海外留学
海外研修
官民協働事業
広報・マーケティング

プログラム名	担当旅行会社	住所	電話
タイ 「国家・地方創成× 国際交流プログラム」	株式会社エムアールシージャパン	〒110-0016 東京都台東区台東4-32-7 第2宮地ビル6階	03-5846-8213
ラオス 「Discovery Tour in Laos 〜ラオス を通して発見する新しい自分の過 去、現在、そして未来〜」	株式会社 JTB 京都中央支店	〒600-8421 京都市下京区綾小路通烏丸西入 童侍者町167 AYA四条烏丸ビル2階	075-284-0164
カンボジア 「アントレプレナーシップ 型探究研修」	とことこあーす株式会社	〒535-0002 大阪府大阪市旭区大宮4-7-4 1 F	06-7509-2737
マレーシア 「英語を学ぶだけじゃない！ 世界を広げるマレーシア語学研修」	株式会社 JTB 横浜支店	〒221-0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町 3丁目29番1号 第6安田ビル6階	045-311-4811 (代表)
韓国 「日韓高校生の国際共同探究研修」	株式会社エモック・エンタープライズ	〒105-0003 東京都港区西新橋1-19-3 第二双葉ビル2階	03-3507-9777
マレーシア 「人に学び物に学び自然に学ぶ多文化 共生に求められる未来のつくり方」	株式会社 JTB 埼玉支店	〒330-0845 埼玉県さいたま市大宮区仲町 2丁目75 大宮フコク生命ビル7階	048-647-3071 (代表)
アメリカ 「姉妹都市交流から未来に繋げる 米国西海岸教育旅行プログラム」	株式会社陸前高田 アメイジングトリップ・ビューロー	〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町本丸 323-4	0192-22-9105
インドネシア 「DISCOVERY JOURNEY (発見の旅)』 〜修学旅行で中高生が自分の Well-being に出逢う機会を創出」	株式会社 JTB 教育第二事業部	〒141-0021 東京都品川区上大崎2丁目24番9号 目黒IKビル3階	03-6631-3183
フィンランド 「7年連続『幸福度世界 No1』に 選ばれたフィンランドから学ぶ Well-being」	株式会社 ATI	〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-4-1 神田岩本町ブラザビル8階	03-5829-6396 (代表)

※プログラムに関するお問合せは直接各旅行会社へお願いいたします。
 ※パートナーの学校、企業への直接の問合せはご遠慮ください。
 ※ 2025年3月時点の情報です。



国土交通省

観光庁

お問い合わせ先： 観光庁 国際観光部 参事官（国際関係）

☎ 03-5253-8922

海外教育旅行のすすめ 観光庁